特別研修

月例研究会　議事録（　6　月）

2011 年度第　2　回

報告題名　地域ブランドによる農村活性化の効果に関する研究	
報告者　コウ　セツヒ	**日時 6 月 30 日　午後 3 時～**
（所属分野）　農業経営経済学分野	**場所　第 2 講義室**
座長　堀まどか	**議事録担当者　山口祥平**

出席者

長谷部、木谷、小山田、米倉、冬木、高篠、伊藤（房）、阿部（美）、韓、八木、神浦、水木、宮里、安部、易思、威廉、王（毓）、北村、金（喆）、滝田、タンボウニ、中村、堀、山口、林、泉井、Intan,Sudirman,Lies,金（銀）、渋谷、ナスンムンク、徐、趙、Manalo,劉、王（偉）、井坂、薄井、佐藤（洋）、庄司、西田、丸林

報告要旨

今の農村は、少子高齢化や過疎化によるストック資源の増加、農産物価格低下や高齢化等による担い手不足を原因とする耕作放棄、自給率の低下や輸入量の増加がもたらす食の安全問題などの問題が抱えている。これらの問題が原因で、農村の活性がどんどんなっくしていた。改めて農村を活性化するため、政府からの支援はともかく、農村住民自発的な活動もいろんな場所で取り込んでいる。その中で地域ブランド化やグリーンツーリズムは特に効果的だと思われている。

本報告では、昔い定義された地域ブランドとグリーンツーリズムを合わせて新しい地域ブランドになる。こいった地域ブランドによる農村活性化の効果はあるかどうかを目的にし、調査を通じて選定した地域を対象として設定した仮説を検証したいと考えている。

質疑・応答

堀：地域ブランドについての研究ということですが、対象の地域はどのようにして選ぶのですか。
コウ：今は決めていませんが、国産ブランドとグリーンツーリズムなど合わせ持った地域を考えています。

八木：地域ブランドが重要だとわかりましたが、研究目的として重要だから、なにを問題とするのか。
コウ：今までの先行研究では、国産ブランドだけに注目しているものが多い、本研究では、国産ブランドとグリーンツーリズムなどが重なっている地域で農村活性化にどのような有効性があるかも含めて研究を進めて行きたい。

木谷：コウさんの基本的スタンスとして地域ブランドが地域にあって、それがあまり知られていないから売り込みを考えているのか、それとも、みんなが気付かないから盛り上げて行こうと考えているのか。
コウ：例えば、仙台牛など地域ブランドになっているところでグリーンツーリズムなど合わさったところを研究して行きたい。
木谷：地域ブランドが先か、もしくは地域活性化しているところにブランドがあるのか、わかりませんよね。
コウ：どっちが先かはわかりません。しかし、ブランドが 1 つの展開の過程にあると考えています。例えば、1 つの地域でブランドを作ることで活性化出来る。また、逆に、地域が活性化したら地域ブランドを作成することも出来ると思う。
木谷：地域ブランドを作って行こうという考えですね。
コウ：そうです。
木谷：地域ブランドがない場合にはどのように考えるか。
コウ：地域ブランド作成については詳しくはわかりません。
木谷：地域ブランドで活性化している地域を見れば、地域ブランドによって発展して行くだろうと見えるが、しかし、それはどちらが先かはわからない。よって、地域ブランドを作ろうという話にはならないのではないか。
コウ：地域ブランドを作りましょうという話ではなくて、地域ブランドがある地域に、さらにグリーンツーリズムを行っている地域を考えています。
木谷：地域ブランドがない地域は対象外とするのか。
コウ：1 つの地域でブランドを作るには何十年もかかると考えています。よって、研究対象ではないと考えています。
木谷：活性化しているのと、地域ブランドの因果関係がわからない。どちらが先かがわからない。
コウ：地域ブランドが先で、活性化にどのような効果が出せるのかを考えています。
木谷：データ上では、どちらが先かわからないですね。地域ブランドによる活性化について、1 つ 1 つの事例についてプロセスを追っていかないとわからないのではないか。

米倉：1 つは、コウさんは中国から留学されていて、日本を対象とした研究を行う意義はどのように考えていますか。中国に帰ってからどのように役立つと考えていますか。もう 1 つは、地域ブランドを作るということは、地域の外に売るために名前を付けましょうということですね。それと、地産地消との関係をどのように考えていますか。
コウ：地域ブランドのもたらす農村活性化については、現在、日本を対象に研究したいと考えており、中国に帰ってからも役に立つと考えています。地産地消の観点から考えた場合でも、自分達で生産したものを消費していなければ、地域ブランドにもなっていない。地域内では地産地消があり、その上でブランドが作成されると考えています。
米倉：地産地消の考え方と地域ブランドは競争的、競合的関係ではなくて互換性があると考えているのですね。
コウ：はい。
長谷部：東北大学とは地域ブランドですね。しかし、現在、活性化していないと考えています。コウさんが、東北大学を地域ブランドとしてどのようにして活性化させるのかの研究を進めると、とても役に立つ研究になると思うがどうですか。
コウ：おもしろいと思います。
木谷：地産地消についてですが、自分達が楽しく活動していれば周りの人達が集まってくるのではないか。よって、地域ブランドについても自分達が楽しめなければ作成は出来ないのではないか。コウさんの論文に独自性がほしい。楽しんでいるところからブランドが作成されるなど論文の芯になるのではないか。